

専門誌「学校の食事」2025 2月号より 特集「みんなどうしてる？給食費編 part 2」

**給食費について あれこれ思うこと****全国の栄養教諭等の有志の皆さん**

- 食材高騰の波がおさまらず、保護者に対して令和6年4月から1食あたり20円の給食費値上げをしてはいるものの、その程度の値上げでは、とてもとても物価高騰の勢いに追いついていけません。値上げしないと運営できない状況ではあるものの、頻繁には保護者に給食費の値上げを依頼しにくいです。
- 大量調理だからといって安く作れる時代ではないということを知ってほしい。いろいろなものが値上がりしているのに給食費はそのままという教育委員会の考えもおかしいような気がする。決定者は現場の人ではないので実感がわからないのか…？給食担当者のやる気次第で状況は良い方向にも悪い方向にも左右される。
- 物価の高騰に対して献立の工夫で対処すると答えている自治体をみると、現場をわかっていないと思ってしまう。外国産の安い食材を使うと自給率も下がるので、長い目を見て、外国産の食材を多用するのは危険だと思います。
- 給食で栄養価を満たすための苦勞① 毎年1月恒例になるのが、各業者さんへの「安い食材リスト」の作成依頼です。その結果、魚や肉を切り身で提供する機会は減りいろいろな材料が混ぜ込んであるフライやコロツケが頻出していました。
- 給食で栄養価を満たすための苦勞②「困ったときのどんぶり様！！」どんな時でも成長期の腹ぺこさんたちの空腹を満たす必要があります。安価なひき肉を使用したそばろごはんも、枝豆や卵の入った3食丼、野菜たっぷりの肉みそ丼など、バリエーションを豊富にそろえていました。栄養バランスのとれた献立の提供に、適正な給食費は欠かせません。ひいては子どもたちの心身の健全な成長を守ることに繋がりますので、行政側にその必要性を訴えていくことが大切だと思います。（「学校の食事」2月号より一部抜粋）